

身近な草木花 12 月

冬枯れの野に緑濃い葉、そして深紅の艶やかな実は印象的で、正月の縁起物として使われる。

この赤い実は大金にたとえられて、葉蔭に鈴なりに垂れ下がるのはそれこそ大金の万両(マンリョウ)、赤い実が葉の上につくのはそれよりも小額で千両(センリョウ)、わずか数粒の実は十両(ヤブコウジ)にたとえられたりする。

マンリョウ ヤブコウジ科、常緑低木 花期；7~8月 果実；11~4月頃 場所；居住区、法面の随所
関東地方以西の暖地の林内に自生する常緑低木。直射日光の当たらない半日陰を好む。当団地では、午前中陽がさす東法面にはもちろん、ほとんど陽がささない北法面にも、そして居住区内の植え込みの中にも自生している。

マンリョウは茎の上部に葉がこんもりとつき、その葉の下に赤い実が鈴なりにつく。

実の白いものはシロミノマンリョウという。



(写真) マンリョウ(左)、シロミノマンリョウ(右) とともに 2016 12/15 東法面

センリョウ センリョウ科、常緑小低木 花期；6~7月 果実；12~3月

正月の縁起物としていつも“千両・万両”と並び称されるが、マンリョウとは科も違い、遠縁の植物。日本各地の山林樹下に自生する。午前中の木漏れ日程度を好み、特に西日をきらう。

当地では6号棟東側に赤い実のものと黄色い実のもの(キミノセンリョウ)がある。また、東法面の1号棟東方付近に黄色い実のキミノセンリョウがある。

センリョウの特徴は、葉の上に朱赤色の10粒ほどの実がかたまってしまうのですぐわかる。葉の色は黄緑色に、実は橙がかり、マンリョウに比べ少し明るい感じがする。

“正月の縁起物”というが当地のセンリョウの実は鳥に食べられ、12月半ばころにはほとんど残っていない。

ある方は「居住区にも法面にもマンリョウが生えているこの団地は幸いに満ちている」とおっしゃる。ある方は「マンリョウは実が下向きなのでよくない、センリョウこそ上向きに実をつけるので縁起がいい」とおっしゃいます。いずれの考えをとるかは読者の皆様にお任せします。



(写真;左) センリョウ 2016 12/9 6号棟東 (右) キミノセンリョウ 2016 12/15 東法面

ヤブコウジ ヤブコウジ科、常緑小低木 花期; 7~8月 果実; 10~11月に赤く熟す 場所; 東法面
日本各地の山林の林床に群生する小さい常緑樹。マンリョウと同じ科の植物。
庭の片隅や日陰などに植えられ、人目にもつきにくい地味な植物。当地では東法面に生えているが、高さが10~20センチくらいで、地を這うかのように生えているのでよく知った人でないと分かりにくい。
名は「藪柑子」、葉がミカンに似て、藪かげに生えるという意味。
この植物が江戸時代に大流行し、一株“何両”ともてはやされたとか。



(写真) ヤブコウジ (左) 2015 11/27 (右) 2016 12/9 とともに東法面

この三者については「団地の植物 1 月」(PDF)にも書いていますのでご参照ください。

[参考書]

『山溪ハンディ図鑑 樹に咲く花』山と溪谷社

『大人の園芸 庭木・花木・果樹』濱野周泰監修 小学館

『花の風物誌』釜江正巳著 八坂書房

今年最後の紅葉の競演

さまざまな落葉樹が紅葉し、季節を急ぐかのように枯葉となって散っていく中、当地のモミジは12月の上旬に見どころを迎えます。ここではその3ヶ所のモミジを紹介します。

(東法面バス停付近 イロハモミジ)

2016 12/6



バス停に面したモミジで、わが団地の象徴としての紅葉です。が、剪定してから細かい枝がいっぱい伸び、そこに葉が重なるようについているので陽の光を通さず、下から見上げてても暗い感じ。紅葉した葉もびっしりついてるので、絵具をぐちゃぐちゃに塗りたくったような感じになってしまった。

残念である。

(1号棟西側 ヤマモミジ)

2016 12/6



この一本のモミジ、きれいなモミジである。しかし、正面から見ているだけでは何の変哲もないきれいなモミジでしかない。が、その下に入って眺めていると、何か語りかけてくるような、そして紅葉の林の中に迷い込んでしまったかのような、その魔力にひきつけられる。

たかが一本のモミジ、されどモミジである。

(北進入路脇

オオモミジ)

2016 12/8



ここには2本の若いモミジが生えている。初めはきれいに色づいていた紅葉も、そのうち日に焼けて色がくすんでくる。“今年の紅葉ももう終わりか”などと思うのは早計。モミジの下に潜り込んでほしい。2本のモミジが奏でるハーモニーが聞こえてくる。二重奏?いや、オーケストラか?とにかく美しい。パチリ、パチリとシャッターを押す。何枚撮っても、いや何十枚、何百枚、アングルを変えながら新しい視点を探して撮りまくる。いくら撮っても撮り飽きない。いや、撮り足りない。

このモミジに陽が当たるのは、午前11時15分前から、11時15分のわずか30分だけ。12月上旬の約1週間。2年前にこのモミジの魅力に気づいてから、毎年通い詰めている。

千変万化のこの華やきを、皆様もぜひご堪能ください。

比較のためにモミジの葉も載せてありますが、写真だけでは分かりにくいのでコメントします。

葉の大きさと鋸歯(葉の周囲のギザギザ)の様子

イロハモミジ 葉身の長さ3.5~6cm 鋭い重鋸歯

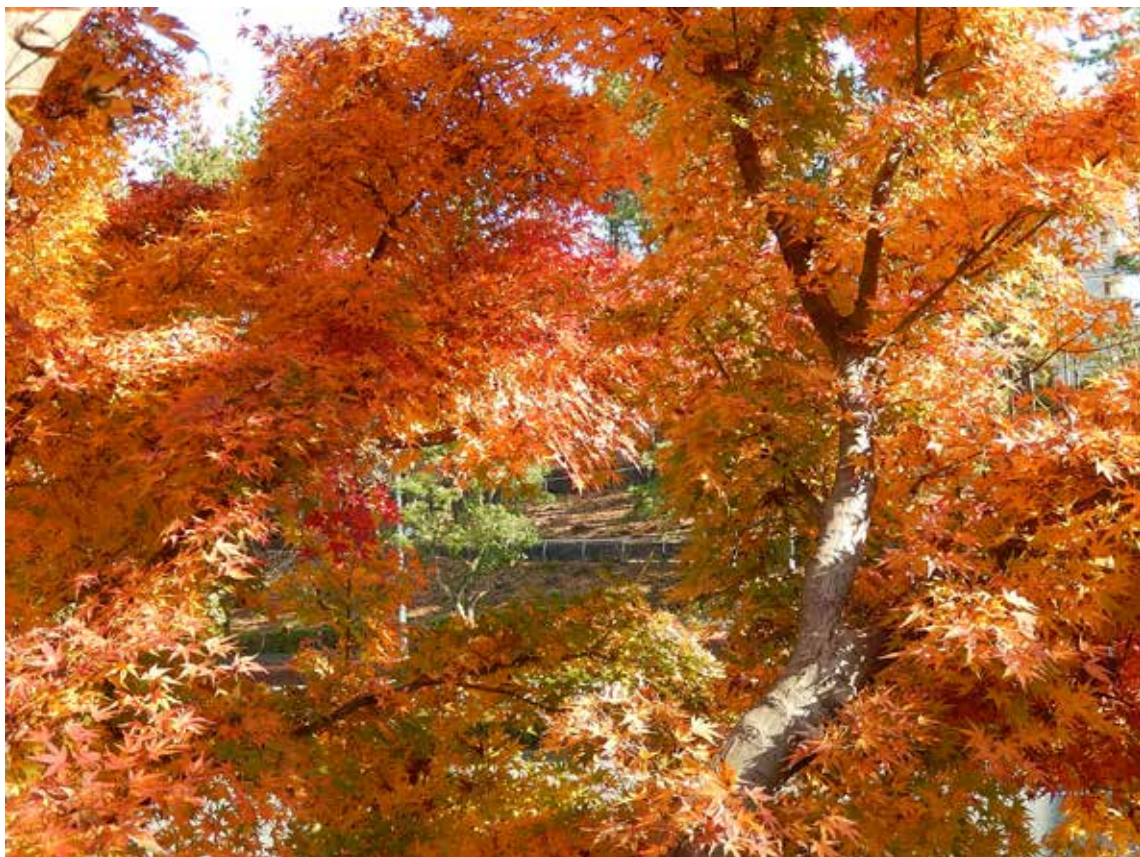
ヤマモミジ 葉身の長さ6~9cm 不揃いな重鋸歯

オオモミジ 葉身の長さ4.5~8cm 細かい鋸歯 『葉っぱでおぼえる樹木』から

オオモミジは全体的に葉が大きく、鋸歯が細かく、列片が太めの感じ。イロハモミジとヤマモミジはほとんど同じような葉だが、イロハは列片の先がやや細め。

次ページ以降に、3か所のモミジの写真を載せますのでご鑑賞ください。

(写真・文 石川)

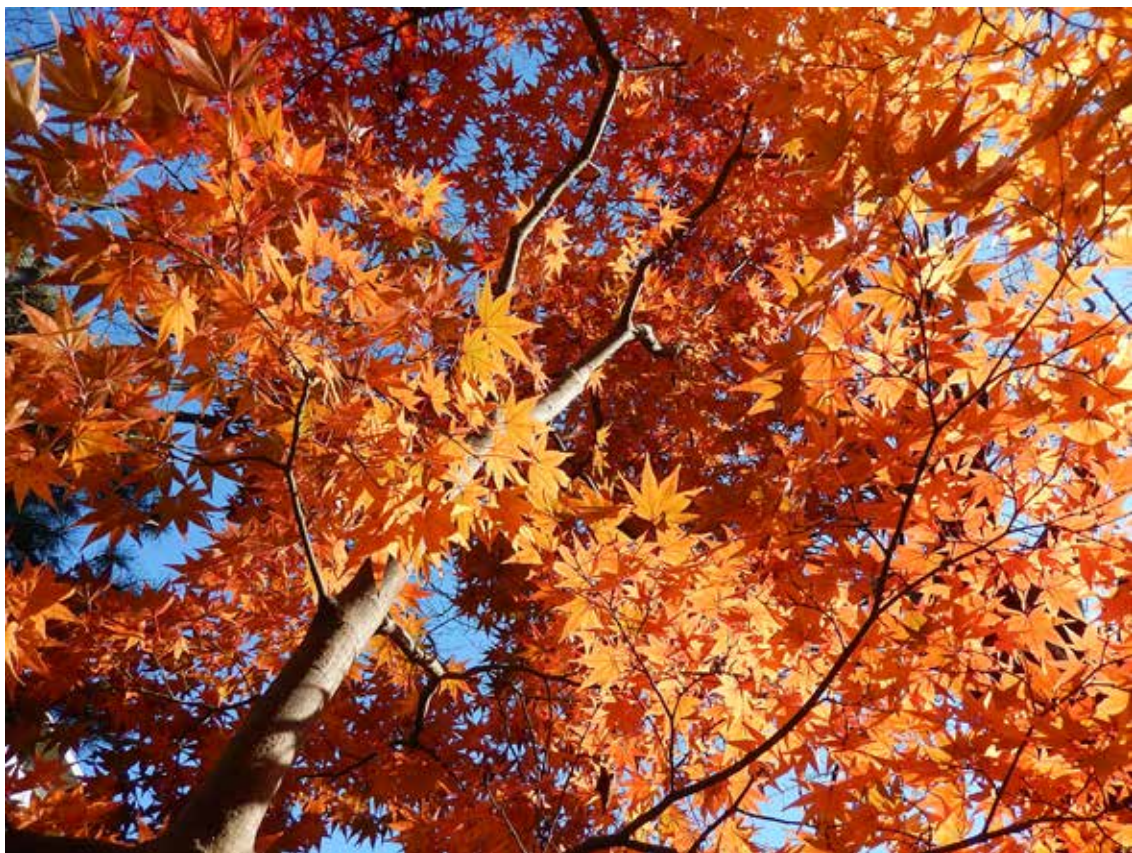


バス停裏のモミジ ; 絵具をぐちゃぐちゃに塗りたくった感じ

2016 12/6 撮影



1号棟西側のモミジ ; 何か語りかけてくるような、モミジのマントに包まれたような 2016 12/2,12/6



北進入路のモミジ (1) ; モミジの競演に酔いしれて

2016 12/6 撮影



北進入路のモミジ (2) ; モミジの競演に酔いしれて

2016 12/6 撮影